

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

#### 教育目標

- 1) 豊かな知と健やかな心を育てる人間教育を行い、人々の幸福と社会の発展に貢献できる人材を育てる。
- 2) グローバル化の進む社会に適應できる英語力とコミュニケーション能力を身につけ、広く国際社会で活躍できる人材を育てる。
- 3) 「行きたい」「行かせたい」と言われる、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

### 2 中期的目標

#### 1 男女共学校としての指導体制の確立

- ① 男女共学完成年度を新たなスタートと位置づけ、改めて建学の精神を基本とする教育目標を浸透させる。
- ② 学校行事や式典において、より一層内容・参加者等工夫を凝らし、新羽衣スタンダードと呼べるものを構築する。
- ③ 今まで以上に、他者を思いやり円滑な人間関係の構築ができるよう支援し、人権を尊重する意識を育成する。
  - a) 人権に関する行事の事前事後指導や、「人権通信」を利用したHR活動を行う。
  - b) 生徒相談室や学校カウンセラーによるカウンセリングを活用し、相談体制を充実させる。
- ④ 将来の自立に向け、基本的生活習慣の確立、マナー意識、規範意識を育む
  - a) 基本的生活習慣が確立できる生徒を育成。だれにでも挨拶ができ、男女や年齢に関係なくコミュニケーションが始められるようにする。
  - b) 遅刻数を減らす
- ⑤ 校舎整備計画が終了し、教育環境も整った中で、更に情操教育の充実を目指す。

#### 2 教育内容の充実

##### ① ICT化

- a) 全教室に完備されたPCとプロジェクターを利用し、アクティブラーニングを推進する。
- b) 生徒には、折にふれタブレットを活用した教育活動を行う。教員にも個人に1台のタブレットを配布、生徒の学習状況の把握や指導に役立てる。
- c) 成績処理や各種書類作成をオンライン化し、仕事の軽減につなげる。

##### ② 国際化

積極的に国際交流を行い、異文化の多様性を理解できる国際感覚とそれに裏付けられた語学力を育成する。

- a) 中学・高校を問わず、海外の学校との交流を諮り、たくさんの生徒が交流に関われるようにする。
- b) 本校の生徒を積極的に海外へ送り出し、海外での生活を体験させる。
- c) 英検を全学的に取り組み、合格者全体の増加と、上級への合格を目指す。卒業後、海外大学進学者へのサポートを行う。

##### ③ 教員の資質向上

- a) 研究授業や公開授業は継続して実施。また、外部の研修にも積極的に参加させる。
- b) 授業アンケートは継続して実施、査定ではなく自己点検に役立てる。
- c) 若手教員には、教科指導やクラス運営について、ベテラン教員から今まで以上に助言と指導を行う。
- d) 学年主任や運営委員など、学校運営の主要ポストの人事では、未経験者を積極的に起用、経験を積ませる。また、ベテランがサポートにあたるような人事配当を行う。

#### 4 進路指導の充実

中堅進学校としての大学進学実績の向上をめざす。

- ① 4年制大学への進学率を75%以上にする。
- ② 国公立大学や難関私立大学、中堅私立大学、さらには志望の多い看護・薬学部への合格実績を出す。
- ③ 目標達成に向けて努力する態度を養い、志望校合格に向け最後まで挑戦する生徒を増加させる。
  - a) 普段の授業と実力テストの相関について意識した授業の実施。
  - b) 生徒の強みを生かし、個に応じた進路指導を行う。
  - c) 課外では、具体的な大学名を提示しながら志望校への意識と合格への道筋を明らかにする。
  - d) 合否結果や成績との相関など上級生の受験データを下級生の指導に役立たせるよう、分析と対策を教員間で共有する。

#### 5 安全教育の推進

一人ひとりの生徒が安全に生活をおくれるよう、健康指導や薬物乱用防止教室、交通安全教室を開催する。

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年1月実施分]	学校協議会からの意見 (実施：平成29年2月)
<p>校舎整備計画が終了した今年度は、久しぶりに落ち着いた教育環境に戻った一年間であった。安全面での心配が小さくなったことで、今年度の目標は、教育本来の内容を設定した。学校関係者からいただいた評価では、「人権教育」の領域で一部ぎりぎりの項目があったものの、全て評価Aという結果で、安堵している。内部評価では、すべて評価Aという結果ではあるが、一部厳しい評価となっている項目については、検証が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校運営」の領域では、学校関係者の評価は高いが、内部の評価が低く、特に教員相互の信頼関係の項目が低いのは憂慮すべき点である。毎年新しい教員が増えている状況を踏まえ、報告と相談しやすい雰囲気作りと日々の多忙な中で教員間の話し合う時間の確保の必要性を感じる。</li> <li>・「学習指導」の領域では、学校関係者と内部では、全ての項目の評価が入れ替わっていて、内部の評価が全体的に厳しい。教員各自の目標が高いのか、自分以外の教員を批判してなかまでは判断がつかないが、この結果でもって、教員がより充実した内容の濃い授業を行うよう、見守りたい。</li> <li>・「進路指導」の領域では、「勤労観・職業観の育成」の項目が内部・外部共厳しい評価となっている。産業構造の変化のスピードに教員の知識が追いついていない状況が伺える。生徒が実際に目にする職業は、ほんの一部であるという認識のもと、調べ学習などを利用して、共に学ぶという姿勢で指導していかないと、いけないのではないかと。</li> <li>・「生徒指導」では、学校関係者から高い評価をいただいた。私学としては当然の事だとしても、素直に喜びたい。今年度の重点目標がこの領域に関わるものだったので、教員の意識が上がり、指導の強化が身を結んだ形となった。引き続き、この状態を保てるようにしたい。</li> <li>・「人権教育」の領域では、「生徒一人ひとりの居場所」の項目がやや厳しい評価。昼休みには生徒相談室の開放が行われていたり、カウンセリングの回数を増やしたりと対策を立てているが、情報が行き渡っていないのか、別の問題なのかの検証が必要。</li> <li>・その他の項目では、「環境教育」の項目の評価が厳しい。地元高石市からはごみの分別など環境に優しい事業所として表彰いただくなど、普段の活動として定着しているにも関わらず、この数字は釈然としない。意識を高めるといって、何か特別な取り組みが無いと、評価に結び付かないのであろうか。また、「学校の施設・設備は学習環境として適切でない」という意見が内部評価としてあり、理解に苦しむ。具体的に何が適切でないかを詳らかにしたい。</li> </ul>	<p>昨年と今年で、領域及び項目が異なるので単純な比較はできないが、学校関係者評価(外部評価)は全体的に高い評価が出ている。共学も四年が経過し、共学化に伴う心配は無くなった様子である。とはいえ、問題が皆無ということではないので、以下項目別に意見を申し上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育環境整備がひと段落し、落ち着いた学校として運営されていることは喜ばしい。しかし、気を許せばすぐに問題が顕在化する可能性はあるので、この状態が当たり前という基準を全教職員がしっかりと持って指導していただきたい。</li> <li>・安全対策に関して、内部評価が少し低いのは、気になるポイントである。訓練不足で不安が払しょく出来ていないのであれば、早急に対策をお願いしたい。</li> <li>・学習指導の領域では、外部と内部の評価の差が小さくなった。ただ、基礎学力については、やや評価が異なる。教える側に「基礎学力とは」について、一定のコンセンサスが出来ているか、確認が必要ではないか。</li> <li>・進路指導に関しては、ここ数年で一番内部と外部の差が小さい。差が小さいことが良いのではなく、不十分であると感じている層が一定存在し、指導する側も何か齟齬を感じているという状況のように判断できる。教員は、生徒保護者のニーズを的確に把握し、適切な指導をしていただきたい。学校として、卒業後の進路に関わるこの部分は、最優先事項である。</li> <li>・生徒指導は、内部・外部とも昨年より改善された。温かくも厳しい指導がこの評価に反映されたと思う。指導する側は大変なご苦労だと思うが、この評価を励みに引き続き指導にあたられたい。</li> <li>・人権教育については、例年通りの結果といえようか。多様な生徒が色々な場面で輝ける場を提供してやれば、一人ひとりの居場所も自ずと確保されよう。</li> <li>・環境問題についての認識が低いようなので、今後の課題としていただきたい。男女共学も次年度は5年目。尚一層、問題点には真摯に取り組みられ、地域に愛され、信頼される学校にしていきたい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 基本的な教育内容の確立	基本的な生活習慣の定着をはかり、いじめの無い学校作りを推進する。	① 挨拶励行については、生徒自治会から「朝の挨拶運動」の呼びかけを学期に一度実施。教員からは、生徒指導部を中心に、「遅刻0週間」の設定と常習者には、生徒指導部長・教頭からの説諭。 ② 「人権通信」の定期的発行、カウンセリングの充実。 ③ いじめのない学校作りをめざし、啓発と共にアンケートなどで、実態把握に努める。	① 遅刻者数を平成28年度終了時には、前年度比10%の減少を図る。また、生徒自治会の活動の一環と位置付け、委員会活動の活性化を促す。 ② 「人権通信」は各学期3回以上の発行。カウンセリングは、受診できる日の確保。 ③ 年1回のいじめに関するアンケートの実施。生徒から情報提供しやすいようなシステム作り。	① 風紀委員会の活動として、毎学期ポスターや朝の挨拶運動など、啓蒙活動を実施。その結果、遅刻者数は、前年比10%減。【◎】 ② 「人権通信」については、各学期3回以上発行され、人権意識の向上に寄与した。【◎】 ③ カウンセリングは、月平均2～3回。希望すれば受診は可能であった。【◎】 ④ 中学校で、いじめ通報システム「ストップイット」を導入。一定の抑止効果はあったと思われる。【○】今後は、集会やHRで、繰り返しこのシステムを周知させる。
2 ICT化	各教室に設置されたICT機器の活用促進とタブレットの活用	① プロジェクターやデジタル教科書の活用について、全教員に周知する。 ② 教員にタブレットを配布し、それを利用した教育活動の推進。 ③ アクティブラーニングの場面で、生徒がタブレットを利用し、調べ学習やまとめ、意見発表できるようにする。	① ICT関係の研修会を学期に1回以上行う。 ② タブレットの配布と、アプリの利用についての研修会を実施、生徒の学習状況の把握や実力テストの成績管理が1年を通して実施できるか。 ③ 生徒全員が、プレゼンや行事のまとめで、一度はタブレットを使用し活動できるか。	① 研究授業は1回は実施されたが、研修会の開催は出来なかった。【△】管理職から、外部の研修会の案内と、積極的な参加を促す。 ② タブレットの配布には至っていない。【×】次年度の予算を付けて、タブレットを配付すると同時に、研修会を実施する。 ③ 色々の授業や課外活動で、活用が見られた。【◎】
3 国際化の推進	生徒が、海外の生徒と触れ合う機会を増やし、英検合格へのモチベーションに繋げる。	① 中学・高校共積極的に海外交流を受け入れる。 ② シドニーにあるメリデン高校、台湾高雄にある高級職業学校と、短期・長期の交換留学生を出す。羽衣オリジナルプログラムの短期語学研修(3月末にカナダバンクーバー)を実施する。 ③ 高校修学旅行で台湾方面を実施。 ④ 年に2回、学校全体で英検を受験。海外留学の目安となる英検2級合格者が一定数出るよう指導する。 ⑤ 海外大学への進学希望者への情報提供とアドバイス・合格指導を実施。	① 中学・高校とも、年間3回以上の交流を実施。 ② 交換留学生が2名以上。カナダ語学研修に15名以上の参加。 ③ 台湾修学旅行は60名以上で催行。実施できるか。 ④ 学校全体で英検準1級3名以上、2級40名以上、準2級200名以上、3級500名以上の合格者を出す。 ⑤ 海外大学への進学者3名以上。	① 中学では年3回の交流。高校では、短期留学の生徒を2名受け入れ。【◎】 ② 交換留学生3名。語学研修は12名の参加。【○】研修内容の精査と参加者の要望を再調査、今後反映させる。 ③ 台湾修学旅行希望者65名。【◎】 ④ 準1級0名、2級37名、準2級191名、3級459名の合格。【×】英語の授業だけでなく、普段からの取り組み、例えば朝礼での自主勉強などで、意識を持たせ、学校全体の取り組みとして盛り上げる。 ⑤ 台湾の大学への進学者3名。【◎】
4 進路指導の充実	難関国公立大合格者輩出と中堅から難関私大の合格者倍増	① 希望する4年制大学進学に向け、進路指導部、コース、学年が一体となり、進路指導を実施。 ② 各学年・各コースで、意欲ある生徒に対して課外授業を設定。特に高Ⅲでは、生徒の志望大学別課外の実施。 ③ 大学見学会や外部の合同説明会に参加をさせ、学部理解や志望校の情報収集ができる機会を設ける。	① 4年制大への進学率75%以上。 ② 国公立大学5名以上・関関同立50名・甲龍産近50名以上、羽衣国際大進学30名以上の合格実績。 ③ 課外授業では各教科で30名以上の参加希望者ができるように指導。 ④ 各学年とも、年に数回は大学見学会や説明会に参加させる企画を作成。	① 4年制大への進学者68%。【×】浪人の増加により、目標数値に届いていない。現役合格にこだわって、指導する。 ② 国公立大学3名・関関同立19名・甲龍産近45名・羽衣国際大42名の合格実績。【×】受験数を増やす事と外部模試の回数を増やすことにより、本番でも力を出し切れる環境作り ③ 毎回希望者は30名以上あった。【◎】 ④ 各学年とも見学会・説明会は実施できた。【◎】
5 行事・式典の見直し	行事式典の実施時期とプログラムを見直し、生徒の満足度をあげる	① 体育祭を1学期に移し、年間行事の位置取りを再確認。各行事の準備期間をしっかりと内容の充実を図る。 ② 情操教育の一貫として生徒全員に、一流の芸術作品を鑑賞させる。 ③ 年間を通して、行事や式典の整合性を計り、羽衣の新しい伝統として定着させる。	① 体育祭や学園祭においては、プログラムや実施要項を見直し、生徒や保護者の満足度をあげる。 ② 全校生徒に年1回は、芸術鑑賞の機会を設ける。 ③ 年度初めに年間計画をしっかりと立て、生徒・保護者に発表、多数の参加を促す。	① 生徒数の増加に伴い、内容・プログラムは変更ざるを得なかったが、混乱もなく無事実施できた。【◎】 ② 今年度は、実施できていない。【×】生徒にふさわしく、料金の妥当な演目を探し、次年度は必ず実施。 ③ 今年度は体育祭を1学期に移動させるなど、大きな変更を行ったが、年間計画通りに実施できた。【◎】
6 安全教育の推進	各種安全教室の実施	① 交通安全教室の実施。 高石警察交通課による講演会実施 ② 薬物乱用防止教室の実施。 大阪府警からの派遣講師による講演会実施等 ③ 防災教育の実施。	① 中学・高校、それぞれ年間最低1回は実施。自転車通学者には、別途講習会を実施。 ② 中学・高校、それぞれ年間最低1回は実施。保健体育の授業でも取り扱う。 ③ 火災対象の避難訓練を年2回実施。大阪880万人訓練の参加。高石市防災訓練に参加。	① 年1回の交通安全教室は定着した。【◎】自転車通学者に対しては、自転車保険加入促進の課程で、意識向上喚起は行えた。【○】 ② 中・高とも、派遣講師による講演会実施。保健の授業でも取り扱う。【◎】 ③ 火災対象の避難訓練を1回実施。大阪880万人訓練の参加。高石市防災訓練に参加。【○】避難訓練が1回しかできなかった場合は、HRで避難経路の確認などを行う。